

MGD診療、GL作成で「標準治療の確立進む」 眼科医の有田玲子氏

2023年1月19日 21:48

眼科医でLIME研究会代表の有田玲子氏は19日、日本眼科学会などが主催した記者懇談会で講演し、マイボーム腺機能不全（MGD）診療ガイドライン（GL）が作成されたことを受けて、「日本でもいろいろな治療法がある中で、スタンダードな治療の確立が進む」と期待感を示した。

MGDは、眼瞼の瞼板内にある。油層を分泌するマイボーム腺が機能不全になることで、ドライアイや分泌性流涙を引き起こす。

有田氏は、海外では2011年に診療GLが作成されたと説明。しかし日本では、MGDがまぶたにもドライアイにも関連するため、「誰がリードしたらよいか分からなかった」状態で、GL作成が遅れたとした。

ただ、治療に関する研究は国内でも進んでおり、「エビデンスは多い」と述べた。GL作成を機に、標準的な治療の確立が進むことに期待を寄せた。

記者懇談会は、同学会と日本眼科医会、日本眼科広報委員会が主催した。